

## 岩崎のオネッコ（岩崎地区鬼火焚き）



1月4日、正月の伝統行事、オネッコが岩崎地区で行われました。

子どもたちは餅を焼いて食べたり、紙芝居を見るなどして暖かいやぐらの中で過ごしました。また、大人たちは外で火を囲み、振る舞われた豚汁や焼酎などで盛り上がっていました。

20時ごろに火入れがあり、集まった人々が勢いよく燃える炎を見守りました。

## ドヤドヤサー（内之浦地区鬼火焚き）

1月7日、内之浦漁協近くの広場でドヤドヤサーが行われました。ドヤドヤサーは内之浦地区の浜辺で、毎年1月7日に行われる鬼火焚きの一種です。新年の飾り類を焚いて、そのほてりで新しい年の悪事災難を払うといわれています。



当日は雲一つない晴れきった空の下で、七草祝いの子もたちをはじめ大勢の見物客が集まりました。親竹が倒れると飾られていた縁起物の笹や飾りを皆で持ち帰りました。



## 国見のジャンボ鬼火焚き

1月13日、約30メートルの親竹を中心にやぐらを組む国見地区のジャンボ鬼火焚きがありました。町内外から集ってきた人々に豚汁やおしるこが振る舞われました。

18時30分頃に火入れが行われると、瞬間に炎がやぐらをつつみ、辺りに響く盛大な竹の破裂音に驚きの声が上がっていました。そのスケールの大きさから多くの写真愛好家も集まり、炎の勢いが増すと同時にシャッターも数多く切られました。

炎がおさまると子どもも大人も竹竿の先につけた餅をあぶりながら、楽しそうに炎を囲んで餅を食べる姿が多く見られました。